

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡県文化財団	
施 設 名	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	30,897	(千円)
	公 演 事 業	23,501 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	7,396 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	グランシップ 世界のこども劇場	8/4~6, 8/11	出演：コンパニオン・アーティストオ(イタリア)、ラ・ガレ・エンカウンター・グループ(アルゼンチン) 演目：人生のおくりもの、女王の子 ※新型コロナウイルス感染症により 出演団体・演目変更	目標値	1,600
		中ホール, 菊川文化会館アエル		実績値	568※
2	鈴木優人指揮 バッハ・コレギウム・ジャパン	10/29	出演：管弦楽・合唱 バッハ・コレギウム・ジャパン、指揮 鈴木優人、リスト 森麻季 他 曲目：モーツァルト クワイム KV626 他	目標値	860
		中ホール		実績値	651
3	【出前公演】オーケストラ・アンサンブル金沢 名曲コンサート	1/22	出演：オーケストラ・アンサンブル金沢、指揮 角田鋼亮、チロ 宮田大 曲目：ドビュッシー 小組曲、カレラフスキー チェロ協奏曲第1番ト短調作品 他	目標値	1,000
		三島市民文化会館 大ホール		実績値	515
4	グランシップ 音楽の広場2022	8/7	出演：指揮 松村詩史、浅野将己 ゲスト 仲道郁代、林永哲・英哲風雲の会 他、司会 堀尾正明 ※新型コロナウイルス感染症により指揮広上淳一氏から松村・浅野両氏に交代 曲目：野平一郎 祝祭の打～輝け五大陸～他	目標値	4,600
		大ホール		実績値	1,844※
5	グランシップ ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル2022	8/14	出演：スーパーブラスオーケストラ他9団体 ゲスト 平賀マリカ 曲目：Overjoyed 他	目標値	1,650
		大ホール		実績値	896
6	【グランシップ伝統芸能シリーズ】グランシップ静岡能	1/21	出演：山階彌右衛門、三宅右近 他 演目：松風、桶の酒、土蜘蛛	目標値	700
		中ホール		実績値	553
7	【出前公演】グランシップ静岡能	5/29	出演：山階彌右衛門、観世三郎太、三宅右矩他 演目：羽衣、寝音曲 他	目標値	700
		菊川文化会館		実績値	263※
8	グランシップ にっぽんこども劇場	8/6, 11/23, 2/23	出演：8/6 狂言／三宅近成他 11/23, 2/23 浪曲／玉川奈々福他 演目：8/6 狂言／柿山伏 11/23, 2/23 浪曲／浪曲シテレ ※新型コロナウイルス感染症により 狂言出演者、演目変更	目標値	600
		8/6 会議ホール 11/23 交流ホール 2/23 下田市民文化会館		実績値	205※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	グランシップ子どもアート体験！学校プログラム	5月～12月	内容：宝井馬琴監修講談教室 他 講師：宝井琴星、宝井琴鶴 他 ※新型コロナウイルス感染症により一部プログラム中止	目標値	1,160
		県内小中学校他		実績値	1,957
2	鈴木優人指揮バッハ・コレギウム・ジャパン事前レクチャー	10/15	内容：本公演「鈴木優人指揮 バッハ・コレギウム・ジャパン」への理解を深めるためのレクチャー 講師：鈴木優人	目標値	100
		リハーサル室		実績値	68
3	ウィーンの演奏家と高校生の交流事業	10/7, 13	出演：ウィーン木管五重奏団、浜松江之島高校、浜松学芸高校芸術科生徒 曲目：アイネクライネナハトムジーク第1、3楽章 他 ※新型コロナウイルス感染症により出演者一部変更	目標値	800
		浜松学芸高校 アクティシティ浜松		実績値	209※
4	【出前公演】グランシップ 中学生のためのオーケストラ	1/23	出演：管弦楽 オケストラ・アンサンブル金沢、指揮 角田鋼亮 曲目：モーツァルト 交響曲第41番「長調「ジュピター」」他	目標値	2,200
		三島市民文化会館		実績値	1,890
5	【グランシップ伝統芸能シリーズ】「静岡能 能楽入門公演」	8/17, 9/10	8/17：子ども・親子で能楽に触れるワークショップ 講師：山階彌右衛門、武田嵩史 9/10：入門公演 出演：山階彌右衛門 他 演目：小袖曾我 他	目標値	720
		リハーサル室 中ホール		実績値	634
6	【グランシップ伝統芸能シリーズ】伝統芸能講演会	12/3	内容：本公演「グランシップ 静岡能」への理解を深めるため家康と能楽等の関わりを講演と実演を交えて紹介 出演：岩下尚史、小和田泰経、山階彌右衛門	目標値	200
		交流ホール		実績値	156
7	グランシップ伝統芸能普及プログラム	6月～12月	内容：狂言ワークショップ 他 講師：三宅右矩 他 ※新型コロナウイルス感染症により一部プログラム中止	目標値	560
		県内小学校他		実績値	305※
8	伝統芸能子どもサミット		新型コロナウイルス感染症により日程調整が困難となり中止	目標値	50
				実績値	※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。	
【社会的役割（ミッション）】 グランシップは、「静岡県の文化芸術の創造拠点として、人、もの、文化、情報が交わり人々が集い憩う県民の“心のオアシス”となる」という基本理念に沿って、静岡県の中心的な文化芸術拠点として文化芸術の発信事業を継続的に担っている。	
【事業の組み立て】 「はじめての劇場しずおか」をテーマに、次世代を担う子どもを中心に、地域、世代、障害の有無に関わりなく、音楽や伝統芸能など多彩な文化芸術に触れられるよう、4つの戦略目標と3つの事業形態で構成し、重層的な事業の組み立てを行った。	
＜戦略目標＞	＜基本方針＞
子ども・子育て世代への支援	上質で多彩な鑑賞事業
音楽文化等の普及・振興	
伝統芸能の継承	
文芸（ことば）・美術等の振興	
×	関心・理解・親しみを深める教育普及事業
	誰もが参加できる県民参加型事業
【事業の進行】 新型コロナウイルスの影響が続き、一部の事業で公演内容や出演者の変更はあったが、中止となった事業は1事業のみで、状況に応じた感染防止対策のもと当初の予定通りに事業を進め、立ち止まることなく文化芸術への取り組みを推進した。	
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。	
コロナ禍においても状況に応じた対策を講じた上で、文化芸術活動を継続し、県民誰もが多彩な文化芸術に触れる機会を創出し続けた。いずれも文化的、社会的、経済的意義のある事業として取り組んだ。	
【文化的意義】「グランシップ世界のこども劇場」や「バッハ・コレギウム・ジャパン」では、世界的に評価の高い公演を東京まで足を運ばずに県内で鑑賞できる機会を創出したことで県内の文化水準の向上に寄与した。「グランシップ静岡能」では2023年大河ドラマで注目される徳川家康ゆかりの演目を上演することで静岡と能楽の深いつながりを改めて紹介し、県民が地域に対して文化的な誇りを持つことができた。	
【社会的意義】コロナ禍で直接文化芸術に触れる機会が減少している中、県内17校で22回実施した「グランシップ子どもアート体験！」では、音楽、伝統芸能など子どもたちが本物の文化芸術に触れる機会を創出した。13回目となった「グランシップ音楽の広場」は大空間を有する大ホールを最大限活用し、県内のアマチュア演奏家やダンサー、ジュニアオーケストラが日本を代表する指揮者等と共演。静岡県を代表する県民参加型事業として県民の文化芸術活動に貢献している。加えて、グランシップ以外の県内劇場での出前公演も菊川市・三島市・下田市等で6回実施し、県の中心的な文化施設としての役割を果たし、地域社会の文化芸術振興に貢献した。	
【経済的意義】コロナ禍で海外との交流が途絶える中、「ウィーンの演奏家と高校生の交流事業」等で海外のアーティストを招き、静岡と海外との交流機会を継続し経済活動や文化によって世界と繋がる生活をアフターコロナへの希望として繋げた。また、徳川家康が大河ドラマで注目されることに鑑み、家康ゆかりの久能山東照宮や駿府城、静岡浅間神社等と連携して広報活動を実施したことで「グランシップ静岡能」に県内外から多くの来場者があり、更に観光スポットへの来訪等の回遊性により静岡に対する魅力を高め、経済的効果を創出した。	

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

(目標) 公演事業 8 事業について、入場者・参加者数の合計は 11,710 人、収益率の平均は 40.0%とした。

(結果) 8 事業の入場者・参加者数の合計は 5,381 人 (目標達成度 45.9%)、収益率の平均は 31.1% (目標達成度 77.7%) となった。

○「世界のこども劇場」は、当初 4 カンパニー16 ステージを予定していたが、新型コロナの影響により、4 カンパニーのうち 2 カンパニーの来日が叶わず、2 カンパニー6 ステージの実施となった。

「グランシップ音楽の広場」は、感染防止対策として、大人数で集まって練習する機会を減少させたことや合唱の実施の取りやめ、出演者の変更等によりチケットの払い戻しなどがあり、入場者数や収益率に影響を及ぼした。

○令和 4 年度前半はコロナ禍の影響が大きく、集客や収益の目標達成が困難な状況であったが、感染拡大防止対策を講じて、事業を実施継続したことで、県民が文化芸術に触れる機会を創出し続けることができた。

なお、「バッハ・コレギウム・ジャパン」や「グランシップ静岡能」では、感染者が比較的減少傾向にある時期に実施できたことなどで目標値に近い結果を出すことができた。

【普及啓発事業】

(目標) 普及啓発事業 8 事業について、入場者・参加者数の目標値の合計は 5,790 人とした。

(結果) 8 事業のうち、1 事業が新型コロナの影響で中止となり、入場者・参加者数の合計は 5,219 人 (目標達成度 90.1%) となった。

○新型コロナの影響で中止となった 1 事業を除き、普及啓発事業については、感染防止対策を講じながら予定通り実施することができた。

○「子どもアート体験!学校プログラム」では、学校のニーズに合わせて一度に参加する人数を少なくし、実施回数を増やすなど、コロナ禍で文化芸術に触れる機会が減少している子どもたちに向けて、本物の文化芸術体験を提供することができた。

○「バッハ・コレギウム・ジャパン事前レクチャー」では本公演で指揮を担う鈴木優人氏自らが補筆校訂したモーツァルト「レクイエム」についても解説を行い、公演への期待を高める機会となった。

○「ウィーンの演奏家と高校生の交流事業」では、ウィーンの第一線で活躍する奏者が、県内で音楽を学ぶ高校生に直接指導しコンサートで共演する機会を創出したことで、高校生にとって音楽の道に進むという将来の夢や希望への後押しとなった。

○「中学生のためのオーケストラ」では、これまで学校行事が全て中止となっていた中学生が劇場に足を運び、国内外で活躍しているオーケストラの演奏を生で聞くことができる機会となり、中学生だけでなく先生方にも本物の文化芸術を実際に触れる大切さを改めて伝えることができた。

○「伝統芸能普及プログラム」の大学生向けの講座では、少人数での実施にすることで様々な体験の機会が減っている大学生が安心して参加できるよう工夫した。また、コロナ禍における文化芸術の本質的な役割や日本の伝統芸能の継承について、鑑賞者と演者の双方への伝承が次世代に継承するための重要な要素であるということを確認する機会にもなった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】新型コロナの感染防止対策を講じた上で、公演事業8事業全ての事業において中止することなく計画通りに適切な事業期間で実施した。なお、新型コロナの影響があった※印については以下の通り。

○「世界のこども劇場」は、4カンパニー16ステージを予定したところ2カンパニー6ステージとなったが、会場ロビーで静岡在住の留学生による母国の遊びや衣装体験を行うなど、ステージ以外でも国際交流の場を創出して事業を実施。

○「グランシップ音楽の広場」は、参加者の練習開始時の感染状況を鑑み、合唱を取りやめ、オーケストラも通常より少人数で実施。公演直前に指揮者が新型コロナに感染し出演ができなくなったが、副指揮者2名での構成変更を迅速に行い、当初計画に近い形で事業を実施した。

○「【出前公演】グランシップ静岡能」は、2022年5月の実施でコロナ禍の影響が強く入場者数に影響した。

○「にっぽんこども劇場」のうち、8/6「狂言わんだーらんど」の出演者が公演直前に新型コロナに感染したが、演目を「棒縛」から2名で実施が可能な「柿山伏」に変更し、目的を変更せずに事業を実施した。

【普及啓発事業】普及啓発事業8事業のうち、1事業のみ中止でそれ以外は対策を講じた上で適切な事業期間で実施した。なお、新型コロナの影響があった※印については以下の通り。

○「子どもアート体験！学校プログラム」のうち「言葉をつなげてみんなで詩を作ろう！」は、新型コロナの影響で実施校を確定できず中止。

○「ウィーンの演奏家と高校生の交流事業」は、出演者が新型コロナに感染したが別の奏者へ変更して実施。

○「伝統芸能普及プログラム」は、一部プログラムにおいてリモートが続く大学の授業との連携ができず中止。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

	事業費当初予算額	実績額	達成率
支出	67,163	55,118	82.0%
収入	23,406	14,495	62.0%

(8事業計/単位:千円)

○「世界のこども劇場」では新型コロナの影響により来日できる海外カンパニーが半減し、公演数が大幅に減少したことで収入予算額との差異が生じたが、事業費もほぼ半減となり積算は適切だった。

○「グランシップ音楽の広場」ではコロナ対策として出演者を減らしたこと、感染拡大時期の公演実施によるチケットの買い控えや出演者変更等による払い戻しが影響し収入が予定より減少したが、事業は当初の計画通りに進行し、事業費は積算通りに執行したため、積算は適切だった。

○「バッハ・コレギウム・ジャパン」や「グランシップ静岡能」については、事業費、収入共に計画に近い執行額で事業費は適切に積算され、事業も当初の計画通りに進行した。

【普及啓発事業】

	事業費当初予算額	実績額	達成率
支出	20,460	16,476	80.5%
収入	2,494	1,130	45.3%

(8事業計/単位:千円)

○全8事業の中で一部変更や中止があったが、予算額の80.5%を執行し積算は適切で計画通りに進行した。

○「ウィーンの演奏家と高校生の交流事業」では、指導を受けた学校の生徒にコンサートを鑑賞してもらおう予定だったが、新型コロナの影響により学校等からの呼びかけが難しく、予定していた来場者数に届かないことが収入の減少に影響した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

グランシップは県立劇場として、県内の文化芸術への取組みを牽引する文化拠点である。文化事業における企画制作ディレクター2名と経験値の高い職員によるオリジナル公演を多く制作するとともに、各助成対象事業について市町の文化施設や教育機関と連携し、県民が多彩な文化芸術に触れる機会を提供している。

【公演事業】

○「グランシップ世界のこども劇場」 地方では触れる機会の少ない世界の上質なパフォーマンスを0歳児から大人まで共に楽しみ、子どもがはじめて本物の文化芸術に出会う機会として継続的に実施している。グランシップでの実施のみならず、小さな子どもを連れてグランシップまで足を運びにくい地域での出前公演も実施することで、地域の劇場と連携し、静岡市近郊の住民に限定されない文化芸術体験の機会を提供した。

○「バッハ・コレギウム・ジャパン」 世界を舞台に活躍し、国内外で高い評価を得る奏者による古楽の演奏を県内で聞くことができる貴重な機会として継続的に実施。古楽ならではの時代背景、当時の楽器や作曲家について理解を深めるため、事前レクチャー（普及啓発事業）も合わせて実施したことで「理解が深まり公演がより楽しみになった」という声が多く聞かれた。

○「グランシップ音楽の広場」 静岡県内のアマチュア演奏家の活動の幅を広げるとともに、国内外の第一線で活躍する指揮者や演奏家と複数回の練習機会を経て共演する県民参加型オリジナル事業として、静岡を代表する夏の音楽祭として定着している。グランシップ大ホールのアリーナを最大限活用し、指揮者を中心とした360度に300人のオーケストラを配置し、鑑賞者もそれを囲む。10代から80代まで世代やジャンルを超えて音楽で繋がりが一体感のある構成は、他には見られないコンサートとして定評がある。

○「グランシップ静岡能」 「グランシップ伝統芸能シリーズ」として、静岡県とゆかりの深い能楽を継続的に実施し、能楽の継承の機会としている。今回は大河ドラマで注目される徳川家康ゆかりの演目「松風」を徳川家と深いつながりのある観世流で上演。開演前に能楽師による解説を加えることで、静岡の歴史の中に能楽という文化が同時に浸透していたことを改めて伝承する機会となった。

【普及啓発事業】

○「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」、「グランシップ伝統芸能普及プログラム」 県内各地の子どもたちが多彩な文化芸術に触れられる機会を創出するため、学校でのアウトリーチを実施。音楽に加え、文楽、講談、浪曲、狂言など、学校教育と連動させ年齢に合わせたオリジナルプログラムを提供。学校教育の中では資料や映像のみの説明になりがちな文化芸術について、本物に生で触れてもらう機会となった。また、県内の大学生向けの講座等も実施し、公演と普及プログラムをセットで実施することで若い世代の学生が初めてのジャンルでも鑑賞しやすい流れを構築した。

○「ウィーンの演奏家と高校生の交流事業」 県内で音楽を学ぶ高校生がウィーンの第一線で活躍する奏者から指導を受けて共演するという、コロナ禍における貴重な機会を創出した。学校生活だけでは得ることができない経験となり、コンサートも合わせて行うことで次世代の育成と県民への文化芸術の波及効果を創出した。

○【出前公演】「中学生のためのオーケストラ」 県内の中学生を対象に、国内外で活躍しているオーケストラ・アンサンブル金沢による本格的なコンサートを実施し、劇場体験の機会を提供した。交響曲をまるごと1曲聴くという聴きごたえのあるプログラムとともにプロの演奏家が真剣に演奏する姿を見せ、物事に一生懸命取り組む大切さを伝えた。助成により本格的な劇場体験を中学生に無料で提供し、バスの手配や費用も当館の負担とした。

○「グランシップ静岡能 能楽入門公演」 静岡県とゆかりの深い能楽について、はじめての人も理解しやすいよう、演目の途中で上演を一時停止し、能楽師自らが場面や登場人物の解説を挟み込みながら進行する全国でも珍しい上演方式で実施。また、助成により入場料を1,000円に押さえることで能楽鑑賞への敷居を下げた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

県内の文化芸術への取組みを牽引する文化拠点として、次世代を担う子どもを中心に、地域、世代、障害の有無に関わりなく、文化芸術の鑑賞や普及の機会を創出した。助成により、コロナ禍においても足を止めることなく事業を推進することができた。

【公演事業】

○「グランシップ世界のこども劇場」では、コロナ禍において海外のアーティストや作品に触れる機会がなかった子どもや保護者に鑑賞機会を提供した。アンケートでは「2歳になったばかりの娘にとって、はじめての観劇だったが、大人も子どもも楽しめた。はじめての観劇がこの作品で良かった」、「自分の住んでいる近くで世界に触れられるのは幸せなこと」という声が聞かれ、コロナ禍で失われていた文化芸術の鑑賞機会の重要性を改めて認識し、グランシップが掲げる「はじめての劇場」という目的を達成する一幕となった。

○「バッハ・コレギウム・ジャパン」のアンケートでは「大変よかった／よかった」が97.5%を占め、満足度の高い公演を提供した。東京公演が完売となったため、東京などの県外から静岡へ来場するお客様も多くみられた。

○【出前公演】オーケストラ・アンサンブル金沢名曲コンサート」では、来場者の約7割が三島市及び県東部からの来場となり、上質なオーケストラを鑑賞できる機会の少ない地域での実施により、県東部地域での文化芸術の発展に繋がった。

○「グランシップ音楽の広場」は、県内各地からアマチュア演奏家が一堂に会し、国内外の第一線で活躍する音楽家との練習を重ねての公演実施であり、県内の演奏家の技術向上と連携を図っている。なお、本公演が継続的に実施していることで、第50回全国アマチュアオーケストラフェスティバル静岡大会を担う団体にノウハウを提供し、自主的に全国の演奏家と交流する機会を創出するという展開が見られた。

○「グランシップビッグバンド・ジャズ・フェスティバル」では、誰でも気軽にジャズを楽しめる機会として出演バンドや来場者の期待が高まる中、3年ぶりにすべて実施することができた。アンケートでは「久しぶりに生のジャズを楽しんだ」「県内にこれほど高いレベルのバンドが多数あることに驚いた」という声があり、地域の文化資源を改めて提示できた。

○「グランシップ静岡能」では、新年にふさわしい祝言「高砂」の上演や着物での来場を促すことで、ロビーでの記念撮影などがSNSで多くみられた。アンケートでも「大変よかった／よかった」が97.7%を占め、「本物の伝統芸能に触れられてよかった」「解説が分かりやすく、改めて能の良さを感じた」という声が多くあった。

○【出前公演】グランシップ静岡能」や「にっぽんこども劇場」では、グランシップ以外の市町の文化施設で実施することで県内全域への文化芸術の波及効果を高め、文化芸術の発展につながっている。

【普及啓発事業】

○「鈴木優人指揮バッハ・コレギウム・ジャパン事前レクチャー」のアンケートでは「大変よかった／よかった」が100%となり、指揮者自らの解説により「理解が深まり本番がより楽しみになった」という声が聞かれた。

○「中学生のためのオーケストラ」のアンケートでは、中学生から「オーケストラはこんなに美しいものなんだと知ることができた」「YouTubeでは得られない感覚があった。始まる前は興味を持てなかったけれど、はじめての曲も好きになれた」など、多感な世代に本物を提供することで一人ひとりに気付きや感動を与えることができたという実感を持てた。

○「静岡能 能楽入門公演」では、静岡県が舞台となった大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関連して曾我兄弟の「小袖曾我」を通して歴史や文化を紹介し、能楽を通して地域文化を掘り起こし継承に繋がる機会とした。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【事業運営】

・静岡県文化財団中期構想、静岡県文化振興基本計画、静岡県コンベンションアーツセンター管理運営業務指定管理者計画書等に則り、適正な事業費や収入率を積算し、多彩な実施事業を決定し運営している。

・企画制作部門においては、事業運営に必要な高度な専門知識と創造性を担保すると同時に、企画事業の芸術性と効率性及び採算性を両立する運営体制とするため、伝統芸能・子ども対象事業のチーフディレクター1名と音楽部門のディレクター1名を配置している。なお、チーフディレクターについては、上記業務に加えて、教育普及事業、人材育成も含めた事業全体について管理している。

【経営戦略】

・財団内に経営企画グループを配置しており、厳しい社会情勢の中でも文化事業を継続的に推進するための安定した経営基盤づくりに取り組んでいる。文化芸術への取組みと共に、経済効果においてはコンベンション機能を有するグランシップにおいて、人、もの、交流を創出することによる収入確保や高騰する光熱水費等の経費の節減に努め、スピード感のある効率的な財団経営に取り組んでいる。

【人事戦略】

・財団全体の人事戦略として、職員のモチベーションの向上や能力を発揮できる組織風土づくりを行っている。各職員が自らキャリアアップの方向性を選択・決定する職務キャリアパス制度を導入し、財団の将来を担う幹部職員の育成を図るとともに、文化事業に関しては多彩でオリジナル性の高い魅力ある事業を継続的に実施することにより、職員の経験値を高め文化事業に精通したスペシャリストを育成している。

・令和4年度から新たな人事評価制度を本格導入し、適切な目標設定と管理、フィードバックを行うことにより、職員の資質向上を図っている。

・財団内での職員研修を月例で実施し、合わせて階層別の外部研修やアートマネジメント研修等を年間を通じて計画的に実施している。

・インターンシップについて長期短期それぞれのコースで毎年実施し、公演制作の業務体験を行っているが、今後は財団全体の業務体験ができるよう改善し、文化芸術に携わる様々な職種について次世代に向けてより広く理解を進めていく。

【ネットワーク構築】

・静岡県公立文化施設協議会の運営、財団内にあるアーツカウンシルしずおかの運営実績も活用し、県内の文化施設と連携しての事業実施、県内の各文化団体との関係も構築している。なお県内の文化施設と協力し、「静岡県高校生アートラリー」事業にも継続的に取り組み、高校生の劇場への来場を県全域で促している。また、県内の小学校～大学までの教育機関との事業実施もあり、多方面での連携を図っている。

【事業実施におけるPDCAサイクル】

・上記事業計画を踏まえた戦略目標と基本方針に合わせた事業を計画～実施し、事業費や入場者数の実績やアンケート結果等を踏まえ、担当内で事業終了後に反省会を実施。その後課内会議で報告し、更に財団内全課長以上の管理職が参加する会議において成功点や改善点を共有し、多方面の視点からの意見を取り入れ、次回の事業へ活かしている。

・県民によるモニター制度を実施し、文化事業における意見を聴取している。

・年に一度、指定管理受託施設の設置者が行う外部評価委員会による評価を受けている。これらで得た意見等を集約し、次期事業計画へ反映し、より質の高い県民ニーズに即した事業実施へと繋げている。